



# 豊東小だより

令和2年11月2日 11月号  
練馬区立豊玉東小学校  
校長 梅津 靖子

## 豊玉東小学校開校記念日

校長 梅津 靖子

11月1日は、豊玉東小学校の開校記念日です。今年度は66周年。20周年の記念誌には、初代校長先生をはじめとする歴代の校長先生方、初代教頭先生、PTA会長や役員の方々が集まり、開校当時を振り返る座談会を行ったと記録されています。昭和29年11月1日、豊玉第二小学校から独立して開校した豊玉東小学校は、5年生以下298名の児童でスタートしました。草ぼうぼうの中にぽつんと立つ木造の校舎。校舎はできたものの様々な設備や教具をそろえる予算がなく、地域の方から募金を集め、その費用に充てたのだそうです。門も垣根もないので、登下校時は、当時の5年生(最高学年)が、先生方と一緒に交通整理をするなどして大変だったということもあったそうです。校庭には、用務主事さんが、地域の方から分けていただいた木を植え、また、放課後になると、職員全員で羽沢の某家の屋敷樹をいただき校庭に移植するという作業を何日も行ったのだそうです。20周年当時の第6代村井智校長先生は、記念誌にこのように記されています。「校庭の片すみに高く育った一本の木、その幹に手をふれるとき、いつの頃、どなたがなされたかは知るすべもありませんが、草を抜き、土を掘ってこの木を植えてくださったご厚情が、ひしひと、からだに伝わってくるのを感じずにはられません。」学校と保護者・地域の方々が一つとなり、人を育てるのは人であるという信念の下に、子どもたちを守り育ててくださったから、今日の豊玉東小があるということ強く胸に刻み、教育目標の実現に向けて、実践を積み重ねていかなくてはならないと決意を新たにしました。

さて、10月3日(土)のミニ運動会は、2学年ずつの分散での開催となりましたが、「こんなときでもあきらめな 豊東」のテーマどおりの姿を子どもたちは見せてくれました。どこまでできるのかという不安が常にある中での指導、練習でしたが、「あきらめない」という思いが伝わる競技・演技を、保護者の方々に観ていただくことができました。保護者の方々の励ましと感染予防の取



組が、子どもたちの頑張りを支えてくださったおかげです。さらに、PTA会長・役員・おやじの会の皆様は、会を運営する教職員を全面的に支えてくださいました。20周年当時のPTA会長・土岐松栄氏は、「いかなる激動と混乱の中にあっても、真実を見抜き、正しい判断のもとに、勇気をもって解決できる逞しい人間、相手の身になって考えることのできるやさしい人間、等々いろいろな可能性をもった子どもたちをゆがめないように、先生方と、会員各位が、がっちり手を組んで、向上、前進できればと思います。」と、述べられていました。この思いは、開校当時から今日まで、脈々と受け継がれているということ、今回のミニ運動会を通して、改めて感じることができました。このコロナ

禍にあり、毎日の生活が不安と混乱に脅かされる中であっても、保護者の方々と共に一つの教育活動を成し遂げられたことに、重ねて感謝申し上げます。本年度のPTA活動は、その多くが休止せざるを得ない状況ですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



テント・受付・感染予防・水撒き・ライン引き・バロール・審判補助・片付け……